教育実習の質を高める指導
～教育実習生の自己評価を通して～

Instructions to improve the quality of teacher training through self-evaluation by student teachers

田代雄一・矢口元晴・春田淳一
Yūichi TASHIRO, Motoharu YAGUCHI, Junichi HARUTA

はじめに

教育実習は，単に学校現場での教育実践を通じて，学生自らが教職への適性や進路を考える貴重な機会及び教職の単位を修得するためだけに設定されたものではなく，日々，児童と接し，指導に携わっている教師同様，学校での教育はやり直しのきかない真剣勝負の場であり，将来教職をめざす学生にとっても，教育実習期間中の教育は，対象児童の将来に向けての責任を伴う行為である。

それ故，教育実習に臨むに当たっては，「教育実習の目的や意義」，「教育実習の心得」をしっかり理解した上で，主体的にしかも情熱を持って真剣に学ぶ姿勢が問われる。

教育実習においては，「授業実践」をするだけが主たる目的ではない。学校という組織体が社会の付託を受けて，学校教育目標の実現に向けどのような方策を取り，どのような協力体制をもって，どのように具現化しようとしているかという学校経営システムを学ぶ良い機会でもある。また，知・徳・体のバランスの上にたって全人格の形成をめざし，教科指導以外の道徳や特別活動，さらに生徒指導や家庭・地域との連携指導等，学校教育を総合的に学ぶ貴重な機会として貪欲に学んできてほしいと願うものである。

児童を直接指導する機会を与えられた時は，大学で学んだ基礎的知識や教育技術を駆使することは勿論のこと，担当された先生方の指導助言をしっかりと受け止め，教材研究を怠らず，最善の努力と責任ある態度で臨むことがなにより大事である。また，常に指導後は自己反省を行い，教育実習での学びをさらに深める不断の努力を怠らないよう自分を厳しく律してほしいと願っている。

教育理論と実践のバランスの上に立って，児童に今自分ができる最高の教育を与えることができ，児童から信頼され愛される先生，感動ある教育実習となることを目的に教育実習の指導を行っている。

このようなことから，本学が行っている指導内容と教育実習終了後の学生による自己評価（平成26年度～28年度）を比較することにより本学の教育実習に向けた指導の在り方を見つめ直し，改善点が明らかになると考えた。

Ⅰ　教育実習に向けた指導の概略

1，教育実習にあたっての基本的姿勢

児童コースは，開設11年目を迎えたが，これまで地域にある大学として積極的に受け入れ体制を整えてもらっている滝川市及び近郊の小学校での実習や一昨年から道内出身者による母校実習を実施している。

教育実習に参加するにあたっては，何よりも真剣で主体的な実習態度が求められる。また，常に指導してくれる先生方への感謝の気持ちを持ち続け，大学で学ぶことができない実際の学校教育現場の指導の様子を，体験を通して学ぶことが大切である。各学校の教育方針や学級経営方針に従い，真の教師となるための情熱と強い職業意識を持ち，日々努力を怠らず，充実した教育実習になることが学生一人ひとりの目標となる。

教育実習後には，受入校からの要望事項や指摘事項なども参考に次年度の教育実習の指導内容の改善を図っている。特に以下の点を実習に臨む基本的姿勢として指導している。

(1)　実習生は，各学校の教育方針や学級経営の方針に従い，校長先生をはじめ指導にあたる諸先生の指導監督のもとに実習する。

(2)　実習生は，常に礼節を忘れず，実習校の職員や児童・保護者の信頼を得るよう努める。

(3)　実習生は，教師であると同時に一社会人として，正しい言葉遣いと生活態度，整った服装で実習に臨み，各学校の服務規程をしっかり遵守する。

(4)　実習生は，自ら課題をもって実習に臨み，指導教師の指導のもと課題追究に向け意欲的に実習に臨む。

(5)　実習生は，児童理解を図るため，学習場面のみならず遊び，清掃，給食，学校行事等あらゆる教育活動に積極的に参加する。

〈実習に臨む 3 か条〉

(1)　将来教職に就きたいという強い意志を持って実習に臨む。

(2)　実習中は，一社会人であることを自覚し，責任ある態度で実習に臨む。

(3)　児童の成長の把握と心理の理解に努め，これまで以上に児童が好きになるよう実習に励む。

2，教育実習の意義と目的

(1) 教育実習の意義

①学校現場の仕組みや教師の仕事を体験することにより，教師としての使命感・実践的指導力の大切さを身をもって学ぶ。

②大学で学んだ教職に関する知識や教育理論，指導技術を実践の場で具体的に活用する能力を養う。

(2) 教育実習の目的（教育実習で何を学び取るか）

―基本的な目標―

①教育理論の実証的研究……大学での学びを学校で具体的に実証する。

②職場としての学校生活の体験……教師として自己の力量や教職への情熱を再認識する。

③児童とのふれあい……体験を通した児童理解に努め。教育が教師と児童間の信頼関係の上に築かれていることを理解する。

④教職意識を高める……教職への思いと責任の重大さを実感する。

―具体的な目標―

ア　子どもの発達過程や子どもの学校生活の様子を知る

・学年差・男女差・個性差の実際

・子どもの学び，遊び，係活動，給食，清掃等の学校での生活の実際

イ　教育課程と学習指導の関連を知る

・学校教育目標具現化への取り組みの実際

・基礎学力向上を図る学習指導の工夫の実際

ウ　道徳，特別活動，生徒指導の内容を知る

・道徳，特別活動，総合的学習の時間，外国語活動の具体的な取り組みの実際

・基本的生活習慣の育成，集団における社会性の育成の実際

エ　学年・学級事務や服務について知る

・学級担任としての事務や校務分掌における仕事内容の実際

・公務員として遵守すべきこと，及び学校の服務規程の実際

オ　教育環境整備の大切さを知る

・校内の施設設備とその活用の実際

・換気，採光，保健衛生の保持の実際

カ　家庭や地域社会との連携について知る

・連携の具体的事例と取り組みの実際

(3) 実習生に求められる資質能力

①教師としての使命感……教育公務員としての責任感，地域社会，保護者への信頼感
②子ども理解……発達過程（知・徳・体），子どもの世界の認識（遊び，友人関係）
③教育者としての愛情……子ども好き，親切，公平，思いやり，優しさと厳しさ
④教えるプロ意識……教科に対する正しい知識・技能，易しく丁寧に指導する態度
⑤子どもを引き付ける魅力……明るい性格，よく遊んだり相談にのってくれる，特技・話題が面白い（子どもの興味・関心をよく知っている）

失敗は許されない ⇔ 《実践的指導力》 ⇔ 教育実習の重視

(4) 実習期間　　8月～9月の3週間

(5) 実習内容概観

【指導者（指導法の工夫）】　　【教材（指導内容の研究）】
学習者（児童理解）
【教育メディア（教育機器活用）】　　【教育環境（学びの場づくり）】
【教育制度（学校の役割・教師の仕事）】

「教育は人なり」……ILOの「教員の地位に関する勧告」
―教育の仕事は専門職である。それ故，
教師は児童の成育に責任を持って接しなければならない―

教育実習の歴史

明治6年，教授法の実地練習をしたことが始まり，明治40年より「教育実習」という名称になった。昭和24年の教育職員免許法で「教育実習」を「教育に関する専門科目」に位置づけられた。

※1999年　教員養成審議会答申
「採用当初から学級や教科を担当しつつ，教科指導，生徒指導等職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質能力を身につけておくこと」

3，実習に臨む心構え

(1) 教師になりたいという強い意志で臨む

指導教員＝学級・校務分掌の仕事，自己の研修＋α（実習）

×教師になりたいという強い意志を持っていない学生まで忙しい時間を割き指導したくない。将来自分たちと同じ教員になる後輩だと思うから指導に力が入る。

×実習生が入ることで，学習計画に狂いが生じ，学級の児童の学力が低下したり，学級

組織の乱れを招くこともある。

○若く，活動的な学生が来ることで，子どもたちが喜ぶ。

○自分の指導力を見直す良い機会となる。

(2) 学生気分で臨まない

仕事は真剣勝負の場　＝　受身ではなく自ら学ぶ姿勢を

×失敗や過ちは許されない……子どもは実験台ではない。教育は一回限りのもの。実習生の失敗や事故は受け入れた学校や担任の責任となる。

×服装・言葉遣い・勤務態度すべて子どもの手本にならなければならない。

○情熱的な実習態度は，職員全員から好意的に迎えられる。

○実習生も「先生」と呼ばれ，全校の子どもたちから頼りにされる。

(3) 如何に学ぶかは自分の気持ち次第

教職が好き，子どもが好きになるように意識の転換を図る

×目的も明確でなく，課題も持たず臨むと，実習成果は少ない。

×子ども嫌いは，教師失格（うるさいと思うな，わずらわしいと思うな）。

×どんな時も安全を優先させなければ事故が起きる。

○一生懸命やれば，子どもは付いてくるし，授業でも助けてくれる。

○教育実習後教員になりたいという学生が多い。

4，勤務上の心得

(1) 出勤と退勤について

①始業20分程度前には出勤し，職員室で元気に教職員に挨拶，指定された出勤簿へ押印する。（印鑑持参）

②実習期間中の欠勤は基本的には避けるのが常識だが，病気・事故等でどうしても欠勤，遅刻する場合には，教頭先生や指導教諭へすぐ状況を連絡し指示を仰ぐ。（無断欠勤は実習を取り消すこととなる。）

③急な欠勤・遅刻・早退は実習計画に支障をきたすし，その穴埋めで学校が迷惑をこうむることを考え行動すること。

④退勤は，翌日の準備をし，与えられた部屋をきちんと整え，指導教諭に連絡する。

⑤勤務時間内に仕事が終わらない場合は，自宅でするか，指導教諭に許可を得て残る。

(2) 勤務について

①勤務中は校長先生・教頭先生・教務主任や指導教諭の指示に従うこと。特に指導教諭の許可なしに職務（実習項目）以外のことはしない。

②講義や参観などには必ずメモ・ノートを持参すること。

③与えられた仕事は，期間内に責任をもってする。

④事務処理や報告は速やかにすること。

⑤実習日誌は，毎日記録し，退勤時に担当指導教諭に提出すること。

⑥実習室の整理整頓は勿論のことであるが，火気には十分注意すること。

※学校の中や敷地内は現在全面禁煙となっている。(受動喫煙防止のため)

⑦放課後も勤務時間であることから，与えられた仕事をしたり，自己課題の研究と整理・まとめを行うこと。子どもを指導教諭の許可なく残して指導したり，遊んだりしない。

(3) 授業について

①指導内容を学習指導要領，教科書，参考書等でよく確かめ，正確な内容をよく分かるように教える。

②学習指導案は指導教諭の指導のもと授業前日までに作成し，点検を受ける。(通常の授業では略案，研究授業時は細案を作成する。)

③学校から借りた資料や教材類は使用後お礼を述べ指導教諭へ素早く返却する。

④学校の教具や校具は使用後，使用状態を確認し元の場所へ戻す。

⑤テストや児童の作品，作文等の成績物は，個人情報保護の立場から校外への持ち出しは禁止されているので，取扱いには十分注意し，処理後は担任教諭へ提出する。

⑥自分の担当学級だけではなく，他の学年や他の学級の授業についても，実習計画に沿って積極的に参観し，自己の指導の参考にさせてもらう。

⑦授業時間が延びそうな場合は，指導教諭と相談し，承認を得た上で延長する。

⑧自分の授業を参観してもらったり，他の先生の授業を参観させてもらった時は，その日のうちにお礼を述べ指導を仰ぐ。

⑨研究授業を行うようになった場合は，早急に日程と教科・内容を國學院短大のコースの先生に連絡する。

⑩授業実施及び参観の記録は，記憶の鮮明なうちにまとめて実習日誌に記入する。なお，誤字・脱字のないよう不安な文字は国語辞典で調べてから記述すること。

※自分のパソコンを教育実習に持参してよいかどうかは，事前の打ち合わせの時に担当の教師に聞くこと。

(4) 研究授業討議と反省会について

①５分前には会場に授業で使用した資料，指導案，児童の観察記録等を持って着席して先生方を待つ。

②「今日の授業の意図（目標)」「子どもの反応予想と実際」「工夫した教師の手立て」

「授業の反省」等をまとめて話せるよう準備しておく。

③先生方の意見に耳を傾け，批評は謙虚に受け入れ，今後の自分の授業の反省とすること。話し合いの内容は，概要を記録し，実習日誌に整理し記載する。

（例　研究討議の流れ）

1，司会者による開会の挨拶と授業者紹介（研究会を開いていただいたお礼の挨拶）

2，授業者による本時の意図，教師の手立て，実際の子どもの反応，授業反省
（指導案作成上の留意点，授業で使用した図や板書，授業評価メモの用意）

3，参観された先生方からの意見や感想（記録し，授業反省資料とする）

4，校長先生，教頭先生，指導教諭の助言（教育実習の反省資料とする）

5，（授業者お礼の言葉）と司会者による閉会の言葉

(5)　教材研究と授業構築

①教材研究の進め方

よい授業を実施するには，授業の前に十分な教材研究を行い，それを学習指導案としてまとめる。さらに，これをもとに児童の反応に即し授業を展開し，実施後授業を評価し反省する。また，指導教諭や他の実習生の授業から多くを学び，自己の授業力を高めるような不断の努力が大切である。その教材研究の進め方は，

ア　教科・学年の目標を理解する

・学習指導要領解説書や教師用の指導資料をもとに教科や担当学年における指導目標を調べる（概観的捉え）。

イ　本時の目標と内容・教材を設定する

・単元全体の中での本時の目標を明確にする。その目標に沿い教科書教材を用いるか，それとも自作教材を用いるかを決定する。

ウ　学習活動の内容を考える

・どのような活動をさせるか，そのための提示の仕方，学習形態，討議のさせ方，まとめ方を工夫する。

エ　発問内容を吟味する

・目標到達に向けたキーポイントとなるような主要発問を授業の流れに即して考える。

オ　児童の反応予想とチェック法を考える

・発問に対する児童の応答と活動予想を立て，どの場でどのような方法で教師がチェックするかを決める。

カ　学習困難児や多様な解法，個人差への対処法を考える

・「わかる」「できる」「身に付く」の視点から支援法をあらかじめ考えておく。

キ　板書計画を立てる

・１時間の授業の流れが見やすく，問題提示から解決までの過程が分かりやすい板書の仕方を考える。

ク　本時の授業評価を考える

・到達目標に即した評価問題を考え，いつ，どのように実施するか決めておく。

②指導案の書き方（例）

○○科学習指導案

○年○月○日（○）○校時
○○小学校　○年○組
指導者　○○　○○

1，単元名　「　　」

2，単元の目標

(1)　知識・理解面　(2)　技能面　(3)　育成したい考え方　(4)　育成したい態度　等

3，単元設定の理由

(1)　教材観（自分なりの教材解釈）
この授業を組んだ意図やこの授業により育つと考えられる力等

(2)　児童観（指導学級の児童の実態）
この授業を進めるのに必要な基礎的学力定着度，一般的な児童の学習に向かう様子　等

(3)　指導観（指導案作成の意図）
本時目標を到達させるため，このような活動を考え，個人差が生じる場合はこのような支援策を考えておく等

4，単元の指導計画（全○○時間）

時	学習活動	指導上の留意点
1 2 本時	○学習活動の要点	○指導上の要点

5，本時の目標

①知識・理解面　②技能面　③考え方　④態度　のうち本時に関する事項を書く

6，学習準備

・学習の中で使用する教材教具等

7，本時の学習展開

過程	児童の活動	指導上の留意点（含評価）
導入 展開 整理	・学習問題 ・児童の多様な解決予想 ・まとめ	・既習事項の活用や提示の工夫 ・机間指導の仕方や支援法 ・児童の考えを生かしたまとめと評価法

8，評　価

○○の内容について○○のように表すことができたか。

5，児童理解の仕方

①児童の観察から……

○外観……元気さ，顔色，姿勢から健康度チェック

○目……充血や集中度から睡眠状態チェック

○動作……落ち着き具合，体調チェック

○児童の応答……怪我や病気等体調全体のチェック

②児童とのふれあいから……

○登校時……元気度，児童の興味・関心等チェック

○授業時間……学習内容の理解度チェック

○休み時間……交友関係，趣味・特技チェック

○給食時間……偏食，食生活の実態，最近の児童の関心ごとチェック

○清掃時間……協力関係，性格行動面チェック

○放課後……交友関係，性格行動面チェック

③児童理解の内容

○各教科の理解度（困難児の特定，指導法によるわかり方・でき方）

○学習態度（積極的，消極的）

○性格・行動（活発，乱暴，優しさ，協力的，責任感）

○交友関係（仲良しグループ，孤立）

○家庭状況（生活リズム，食生活）

○身体状況（障害，アレルギー，怪我，体調不良，病気による活動制限児）

6，生徒指導について

(1)　基本的な生活習慣の指導

(低学年)

基本的な生活習慣づくり……自分のことは一人でできるようにさせる。整理・整頓がきちんとできるよう習慣化させる。

(中学年)

対人関係づくり……力での解決から話し合いでの解決を図る。そのためにコミュニケーション能力を伸ばす。友達のよい点を認め，相互理解を図る。

集団活動づくり……クラスでの所属感を高めるため，集団での行動や活動を取り入れる。自己の役割を理解させたり，自分がクラスにとって必要とされていることを意識化させるため，係活動を活発にする。

(高学年)

規範意識……自己中心の考えを改めさせ，集団でのルールを大切にさせるため，清掃活動や給食準備等での行動をチェックし指導する。自分で判断し行動する態度を身につけさせるため，教師は助言にまわる。

社会生活……家庭や社会の一員としての役割を自覚させるため，奉仕活動を進めたり，家庭での手伝いをしっかりさせる。

⑵ 問題行動への対応

①問題行動には，必ずしも反社会的行動だけではなく，内気や無関心，神経症などの非社会的な行動も含まれる。

②問題行動が発見されたら，それが，どのような性格のものであるか，その問題点と関連ある行動をすべて記録し，整理する。

③問題行動の原因を探るのに役立つ資料を収集する。(専門書を参考にする)

④急を要する指導以外で，問題の指導にあたる場合は，家庭の理解なしに進めると後日保護者との信頼関係が崩れることもあることから，指導教諭とよく相談すること。

7，その他の遵守事項

⑴ 指導教諭の指導を聞かず，他の教諭の指導に従い行動することは慎むこと。

⑵ 指導教諭の許可なく担当する児童の家庭を訪問したり，保護者に連絡・通知を出すことは行ってはならない。(実習終了後の文通なども誤解を生むので禁止)

⑶ 児童の個人情報や学校で知りえた情報を外部（友達等も含む）に洩らす事は，禁止されている。

⑷ 指導教諭の許可なく，放課後残したり，子どもの写真を撮りSNS等に掲載することは禁止されている。

⑸ 児童に対し体罰を行うことは禁止されている。

⑹ 病気の児童に対し，自分の判断で医薬類を服用させることは禁止されている。

⑺ 児童に指導教諭の許可なく物品を与えることや保護者や児童から金品や贈答品をもらうことは禁止されている。

⑻ 校内及び校地内で喫煙することは禁止されている。

⑼ 学校にある用紙，マジック，その他の事務用品を許可なく使用しないこと。

⑽ 教員として場に応じたふさわしい服装や言葉遣いをすること。(ジャージ・ジーパン登校，茶髪，イヤリング，特に目立つ化粧，高価な金品等の禁止)

※特に香水は，現在シックハウス症候群が問題となっているので気をつける。

※スマホの教室への持込は禁止されているので，実習控室に置くこと。但し，金品を含め，自己責任であり盗難の保障はない。

(11) 児童の指導にあたっては，公正・明朗・愛情（教育愛）をもって行うこと。（差別やひいきは児童からも嫌われる。）

8，実習方法

(1) 教育実習の3形態（観察・参加・実習）

①観察……大学で学んだことを基に，各学校や学級の状況，教員の教育活動や児童の学習活動の観察を通して理解を深めること。（直接自分では授業せず，指導教諭の授業を参観させてもらい学ぶ学習形態）

②参加……指導教諭の指示のもと児童と一緒に教育活動に参加し，指導の一部を分担して行う学習形態。（指導教諭の補助的存在（TT）として体験的に指導法を学ぶ）

③実習……指導教諭の指導のもと，実習生が指導の責任を委託されて，実際の教育活動を行う授業形態。自ら指導計画を作成し，自ら指導することで教える事の難しさと教職の魅力を実感する。

(2) 観察（見学）実習

《目的別観察》

①実際に指導に入る前に，子どもや学校の教育課程，さらに学校の経営方針や学校の実態の概略を把握する目的でする。

②学習指導や生徒指導の面で学校研究課題に即し，自ら指導しその反応を観察し，成果と課題を明らかにするために行う。

③自己の実習課題を解決するため，特にその視点に絞って多くの場面で観察し，データを集める目的で行う。

④学校教育の全体像を把握するために，多くの教育活動を見学し，認識を深め，教育実習に意欲的に参加することを目的とする。

《観察の観点》

①学校環境とその影響……位置，校舎，施設，学校周辺の環境等

②学校の様子……教室の状況（備え付け設備・備品，掲示物，採光・換気，整理等），児童の状況（出席状況，雰囲気，学習態度，児童間の交友関係）

③教室外の活動……登・下校の状況，休み時間の児童の様子，遊びの実態等

④学習指導……教師の指導（発問，板書，教材の工夫，学習形態，授業の進め方，個人差への対応等），児童の活動（学習訓練の様子，教科による学び方の違い，質問の仕方，

ノートの活用，教師との関係等）

⑤生徒指導……教師の指導（組織，計画，実施，記録と評価法等），児童の様子（生活習慣の徹底度，問題行動をする子，指導に留意が必要な子等）

⑥特別活動……学級活動，児童会・委員会活動，クラブ活動，学校行事の様子

⑦学校運営……内容，組織的な動き，研修の様子

※要点をきちんと理解できるよう観察時には必ずノートを持参し記録。

後に実習日誌に整理しまとめる。

逸話記録法……子どもの人格や性格の理解に有意義とされ，具体的な場面での子どもの行動をその背景（例　教師の発問，教材・教具の提示，指示・助言等）と一緒に記録する方法。（子どもの反応を通して教師の発問や資料提示が有効だったかどうかを後で分析できる。）

チェックリスト法……子どもの座席表や名簿一覧表を予め作成しておき，チェック項目を決めておいて，記録していく方法。（○，△，×での記録，特徴的な解法のメモ）

評定尺度法……観察者が事物や人物を予め設定したいくつかの項目に分類して評価する方法。

（例）評価の観点

・毎日の課業を規則正しく注意深く準備する。
・与えられた仕事が終わるまでやり通す。
・要求された以上のことをする。
・時間を有効に使う。
・自ら求めて仕事をする。
・他人のいやがる仕事も進んでする。

1	2	3	4	5
怠ける	どうにかパスする	与えられた仕事は果たす	与えられた以上の仕事をする	明確な目的に向かって努力する

図示法……児童の行動を予め用意した図（例　座席表，体育館やグラウンドの図等）に記録していく方法。発言順や発言回数，活動している場所や仲間関係，活動内容等を図の中に記入していく。）行動パターン，積極度，人間関係を知るのに役立つ方法。

(3)　参加実習

《参加の仕方と目的》

①児童の生活・活動に溶け込む（児童個々の個人差の理解）

休み時間，放課後など（発達，考え方，行動，言語，遊び等の特質の理解）

②学級経営，学習指導への参加（指導の仕方の理解）

・教室の美化，整備　・花壇の手入れ，飼育　・分担の校舎内外の清掃　・係活動

・教材，資料の収集整理　・教具，機器類の活用　・練習問題やテスト問題の作成，

・ノートや作品などの指導　・助言，助手的な役割

③教育活動への参加（学校の諸機能の理解）

・学校の施設，設備の安全と維持管理　・教育活動の組織，運営　・学校行事における児童の管理　・児童活動，クラブ活動などの指導と運営　・事務の分担

④生徒指導の参加（児童の生活に応じた指導の理解）

・児童の日常生活を共にする　・登下校の安全指導　・給食指導　・健康観察指導

・余暇の指導

⑤教師の勤務の理解（教職の理解）

・出勤・退勤のきまり　・早退や欠勤のきまり　・校務分担，学級運営事務とその処理の仕方　・学級保護者会，PTA活動，地域社会とのかかわり方（交通指導，不審者対策等）

(4)　実習（特に授業実習）

※自己の持つ力量のすべてを出して，自己の計画で，責任をもって職務の遂行にあたる。
※児童の人格や能力を発達させ，望ましい人間形成を促す，教師としての使命を常に心して実習にあたる。

①授業の背景にある諸問題の究明……単に指導技術である発問の仕方や板書の仕方等を習得することではなく，授業に関連する要素である，指導計画の立て方，指導内容の選び方，教材・教具の提示の仕方，児童の前提学力の見極めと授業への生かし方等を分析的に学ぶ。

②研究的態度で学ぶ……教える者の心得として，常に研究的態度で臨むことが求められる。自分の指導力を向上させ，児童の学力向上につなげたり，現在の教育課題や自己研究課題の解明に少しでも近づくよう日々努力する態度で学ぶことが大切である。

9，教育実習にあたり準備しておくもの

(1)　印鑑……出勤簿に押印するのに使用する

(2)　上靴と外靴……いずれも運動靴。校内においては体育の他に緊急時すばやく行動できるよう常時上靴をはくこと。また，外での体育や遊びの指導，校外学習時などに使用する。出勤・退勤時の靴は日常履いているものでもよい。

(3)　ジャージ……体育時や休み時間，活動を伴う各種行事や学校行事の準備作業等でも着用する。

(4)　水着……水泳授業があるので打合せ時に確認しておくこと。

(5) テーブルクロスとエプロン……学校によっては，給食時に使用する。

(6) 國學院短大部の電話番号及び児童コースの先生の電話番号……緊急時や相談事が生じた時いつでも連絡する。

(7) メモや観察用のノートと，指導案等を作成する場合のノート計２冊。筆記用具（鉛筆消しゴム，ボールペン，定規，修正液等）。

(8) 国語辞典。（実習日誌や指導案等の提出物に誤字のないよう準備しておく）

(9) 自分のパソコンについては，必要な人は事前打合せの中で実習校の先生に聞いてみること。但し，貴重品の盗難については，学校では責任を持たない。また，盗難（帰宅途中も含め）等でパソコン内の個人情報が外部に流失した場合は大変な事態になることを十分留意すること。

(10) スーツ……出勤・退勤時，学校訪問，説明を受ける時，研究討議等の会合時などに着用する。（ジャージやジーパン等の着用は相手に対し失礼にあたる）

10，教育実習の心得

(1) 一般的心得

①実習生も先生……実習生にとっては，大学の単位を取得するための実習であったり，将来教師になるための訓練のための実習であっても，児童から見ると「実習生も同じ先生」である。誤った知識や技能，教育活動時の失敗，自己の不注意による事故等は実習生といえどもあってはいけないことである。正規の教師としての自覚と責任を持って実習に臨むこと。

②問題のある児童の指導は担任と相談……実習生は問題行動をする児童に対し，注意はできるが，体罰は勿論のこと懲戒も加えることはできない。また，そのことで家庭訪問をしたり，保護者に対し注意をすることはしてはいけない。指導教諭とよく相談の上どのような指導をするかを決めること。

③教育公務員としての義務……学校の中では，上司である校長や教頭さらに，実習担当の教務主任・指導担当者の指示や指導に従うことが，教育公務員として守らなければならない義務である。その他，

・子どものことや学校内の出来事等の情報を外部に勝手に洩らしてはならない。
・政治活動を行ってはいけない。
・自分の信仰する宗教を押し付けるような宗教教育を行ってはいけない。
・保護者や社会の信頼を失うような行為（例　授業参観中居眠りをする，遅刻・早退を繰り返す，交通違反等）をしてはいけない。

・勤務時間を守り，時間中は学校の教育活動について一生懸命取り組むこと。適切な学習指導や生徒指導ができるよう努力をすること。

④服務規定に従うこと……各学校で定めた勤務時間，時間割り，割り当てられた仕事に従い行動すること。病気や事故，渋滞等やむを得ない状況で欠勤または，遅刻しそうな場合は速やかに学校へ連絡を入れ，指示に従うこと。急な欠席や遅刻は実習計画に支障をきたし，また，代替の授業者確保等で多大な迷惑をかけることと，何より児童の信頼を失う結果になることを十分認識し行動すること。

⑤謙虚で積極的な実習態度……授業参観や説明，講義等を受ける場合は，指導を受けるに相応しい服装で，５分前には指定された場所でメモの用意をして待つこと。指導者の話を一方的に聞くだけではなく，積極的に質問することは，自分の話を真剣に聞いてくれたと受け取り嬉しいことである。重要事項はしっかりメモし，後で整理すること。なお，終了後のお礼の言葉を忘れないようにすること。

⑥学校生活の全体を理解すること……担当した教室を中心とした授業実習のみではなく，課外活動，学校行事，さらに休み時間，清掃活動，給食準備等にも積極的に参加し，学校教育活動の全体を理解する。なお，教師以外にも多様な仕事をする人たちがおり，学校を支えていることを実際自分の目で見，理解し感謝の念で接すること。

(2)　授業実習の心得

①学習指導案の作成……大学で学んだ指導案の形式と異なる指導案の形式を採用している学校もある。その場合は，実習校の形式に従い指導案を作成すること。書き方で分からない点は指導教諭に質問すること。なお，実習中も土曜日等を活用し，大学にある参考書等も活用し指導案を作成してもかまわない。

②児童の名前をしっかり覚える……クラスの座席表を作成し，できれば３～４日でクラス全員の名前を覚えるようにすること。児童との距離がぐんと縮まる。座席表の中には覚えた児童から○印をつけていくとよい。

③言葉づかい……学校の中では，学生ことばや現代の若者ことばをやめ，正しい日本語で，さらに明瞭で大きな声で話すこと。また，教職員の方々には，指導を受けているという立場を理解し，丁寧語で話すようにすること。

④発問……発問の基本は，学習者である児童が「何を問いかけているかがはっきりわかる」ことである。いつも，子どもの側に立ち，学年の発達段階に応じた言葉を使い，子どもが理解できるよう配慮すること。意味が通じない時は，再度簡単な言葉や図などを使ってより具体的な発問をすること。

わかりやすい言葉で明快に
・発問のタイミングはよいか　・子どもの意欲を引き出しているか
・子どもの発言が生かされているか　・考える時間を与えているか

⑤板書……特に漢字の書き順を間違わないこと。板書計画を立てたら，不安な文字については，事前に調べ正しい書き順を覚えておくこと。板書は，最後尾の児童から見ても見える大きさで書くこと。色チョークを活用したり，資料を掲示したりし，学習のポイントが分かるように整理する。児童にとっては，板書をノートするので，時間内に書ける量にすること。教師が書くだけではなく，算数等では児童の考えや解法例も書けるようなスペースを予め計画し，板書の工夫をすること。

分かりやすく見やすい板書を心がける
○板書は正しく，丁寧に……乱雑な字は，そのまま子どもにも影響する
○図式化，構造化した板書……一見して見やすい板書を心がける
○色チョークを活用……白チョークが基本。重要な事項を色チョークで強調する
○板書量を考慮……１時間に一面を基準に考える
○文字の大きさ……低学年は大きな字で書いてあげ，後ろからも見えるよう配慮する
○消し方の技術……記憶させる消し方を工夫する

⑥児童生徒の指名……教師⇒児童，のような一問一答式の授業にならないように注意し，教師⇒児童１⇒児童２⇒児童３，のように授業が全体に広がっていくような指名や授業を考えること。

⑦上手なほめ方・叱り方……「叱るよりほめろ」「三分叱って七分ほめ」「叱ってもよいが怒ってはいけない」など昔から教育の世界には大切な教訓がある。その根本に流れる思想は，「子どもとの信頼関係」を崩さないような叱り方をしなさいということである。

ほめる

友達への貢献やよい行いを取り上げ，そのよさを本人はもとより学級全体に知らせるようにほめることで，本人の励みと全体の頑張りを期待する。

しかる

感情的にならず，子どもの人格を認め，信頼しながら，叱られた意味がよく分かるよう話してあげる。特に後に尾を引かないようにし，ケアにも気をつける。

⑧誤りの訂正……誤った回答については，頑張って発言したその子の立場に立って理解し，「ここまで，やれたんだね。よく考えたね」と褒め，「この先を考えてやれる人はいませんか？」というように全体に切り替えしてやることで，その子を生かすようにする。また，実習生自身の間違いは，素直に間違いを認め，訂正して指導するようにす

る。

⑨子どもの評価……子どもを評価する意味は，「子どもを生かすため」にある。教師の尺度だけで評価しようとすると，子ども本来の姿が見えなくなり，子どもの中にある素晴らしい能力も引き出すことができなくなる。

「評価の目」
ミクロの目……ちょっとしたつぶやきや表情を見逃さない
マクロの目……大きな視点で総合的に子どもを捉える
マルチな目……一面的ではなく，多面的に子どもを捉える

⑩時間への配慮……指導案の作成にあたっては予め予備授業（児童がいると仮定して授業を進めてみる）をして時間配分をしておき，大幅にズレないように授業を進めることが大切である。また，終業ベルが鳴った後も延々と授業をすると，次の授業に食い込み迷惑をかける。さらに，児童の集中度も失われていくので授業効果は薄くなる。教材・教具，教育機器等を活用し，効率的に授業を進めること。

11，3週間の実習計画例

	1　週　目	2　週　目	3　週　目
(1)学校経営の概括的理解	・校区の特徴と学校の歴史 ・学校経営の方針や重点及び取り組み方 ・施設や児童の安全管理について ・教員に求められる資質と言動について	・教育課程の編成と実際の指導について ・特色ある教育活動（学校研究課題と取り組み方） ・教育環境の大切さと整備について	・学校外部評価と地域や家庭との連携による教育推進について ・現在の教育課題について
(2)学校職員の組織体制について	・学校教育を支える教職員の役割 ・校務分掌組織と各担当の仕事内容	・学年，学級担任の仕事内容と責任について	・問題発生時の対応マニュアルについて
(3)児童理解	・児童の健康把握と管理の仕方 ・特別な配慮を必要とする児童への接し方	・児童理解の仕方(観察・調査・聞き取り・テスト等）について	・指導と評価の一体化について（学習中の評価と実態に即した柔軟な指導について）
(4)教職員の服務・服務規程	・各学校の服務規程について ・勤務時間の割り振り ・教育公務員として遵守すべき事項 ・学校職員，保護者，児童への接し方		

	・実習内容と計画について ・研修室・更衣室等の使い方と管理について		
(5)担任の仕事と責任	・学級経営について ・学級集団の構成の仕方 ・各教科による授業の仕方の違いを見学 ・生活指導の仕方と子どもとの遊び（安全管理）・会議への参加の仕方	・TT等による授業補助の仕方 ・学習指導の仕方と児童理解 ・教室環境の作り方 ・学級事務について ・日常の指導案の作成について	・学校行事と学級担任の仕事 ・保護者や地域との連携の仕方 ・授業評価と授業反省について
(6)実習課題と研究授業	・実習課題の取り組みに対するアドバイス	・公開授業教科の決定と授業単元，本時の授業箇所の選定 ・教材研究の仕方について	・実習課題についての成果の確認 ・公開研究授業指導案の作成 ・今後の課題についてのアドバイス
(7)実習評価	・実習日誌の提出の仕方について	・児童への関わり方に対する指導 ・実習態度に対する指導	・教育実習に対する総合的評価

12，実習生の一日

(1) 事前登校日……実習校と事前に連絡をとり，事前登校日を決める。指定された日に登校し，校長先生，教頭先生，教務主任の先生，さらに指導教諭や他の先生方に○月○日から教育実習でお世話になることの挨拶をする。その後，実習にあたっての諸注意と実習計画書（各学校で作成）の説明を受け，校舎見学，靴箱，ロッカー，実習控え室等について教えてもらう。特に，最初の登校日は何時に登校し，何処へ行けばよいか，事前に準備しておくものはないかをよく聞いておくこと。

(2) 最初の登校日……指定された時刻より少し早めに登校し，職員室の教頭先生に改めて，今日から実習でお世話になることの挨拶をする。事前に指定された場所（校長室の場合もある）できちんとした服装と姿勢で待つこと。

「職員朝会」の中で，校長先生または，教頭先生より，教育実習生の紹介がある。「学校名，学年，名前，この実習で特に勉強したいと思っていること，多くの先生方にお世話になることに対する礼」を述べる。（事前に挨拶文を考えておく）その後，指定された席に着席し，朝会の内容を聞く（２日目からは，メモの準備をして，５分前には職員室へ行っていること）。

学校によっては，その後，全校朝会やTV朝会等で全校児童に対して挨拶する場合があるので，先の大人向けとは別に子ども向けの挨拶（学校名，名前，担当する学年，休み時間や各種行事で全校の児童とも仲良くしたいという願い等を簡単にまとめておく）を考えておくとよい。

(3) 出勤簿の押印……出勤したら，職員室へ行き，指定された出勤簿に毎日押印する２日目からは，20分前には出勤し，朝の挨拶とその日１日の予定打ち合わせのため，指導教諭の所へ行く。

(4) 授業時間……観察・参加・実習それぞれの形態と場所で教育活動を行う。また，初日については，校長先生や教頭先生，教務主任の先生から，学校経営や学校運営上の概略についての話がある場合もあるので，ノートを持参し，しっかりした態度で聞き，大切な点は落とさずメモするようにする。

(5) 休み時間……授業の準備がある場合は，その準備をするが，できる限り子どもと一緒に遊ぶことが望ましい。ただ，特定の子だけと遊ぶと「ひいきしている」と見られることから，全員で遊べる内容を考えて声かけをする。遊びに夢中になり，事故を起こさないよう心配りをしながら遊ぶことが大切。

(6) 清掃・給食・クラブ活動・委員会指導……自らも積極的に参加し，授業以外における児童の実態を把握する。また，活動意義と工夫点，どのような指導がなされるかをよく観察・参加し理解すること。

(7) 学校行事……児童と一緒に活動するが，教師という立場を忘れず，安全・仲間づくり・社会性・規律正しい行動等に視点をあて，指導する。

(8) 放課後……今日１日の内容をメモを基に整理し，実習日誌にまとめる。この時注意することは，講義を受けたり参観させていただいた先生方の言動に対し，批判的に記述することは厳に慎むこと。具体的に勉強になった点を記述し，簡単なお礼の言葉を添えることが礼儀である。（せっかく講義をしたり，授業したのに大事な点が何も書かれていなければ，実習生の印象が悪くなり，評価も悪くなる恐れがある。）

明日の授業の準備をする。使用する教材・教具，掲示物を準備し（指導教諭の許可を受けること……他の先生方も使用する場合があるので調整が必要），使用後は，きちんと元の場所に返還すること。

(9) 退勤……退勤時刻になったら，実習控え室の整理と整頓をする。勤務時間前に勝手に退勤することは許されない。退勤時刻になったら，指導教諭に今日一日の指導のお礼を述べ，実習日誌を提出する。また，職員室にいる教頭先生や他の先生方に「今日一日ありがとうございました。お先に失礼します。」といって退出する。なお，勤務時刻が過ぎても

仕事が終わらない場合は，終了予定時刻を指導教諭に話し，許可を得た上で残ること。

⑽　研究授業……実習中必ず研究授業を行う。校長先生，教頭先生，教務主任，同学年の先生方はじめ，多くの先生方が忙しい中参観してくれる。授業前日までに指導細案を作成し，印刷して全先生方に配布する（指導をお願いする）ことが礼儀である。授業終了後は学校によっては，研究討議の時間を設定してくれる。これについては，先に記述したとおりである。終了後は，忙しい中参加してくださった先生方にお礼を述べることを忘れないこと。

⑾　最終日……職員朝会の中で，お別れの挨拶をする。「実習期間を通して，大学では学べなかったこと，その学校の児童の素晴らしい点，特に思い出に残った点，指導をいただいたお礼，さらに，大学へ戻ってから一層勉学に努め，ぜひ教員になりたい」という決意等を話す。全校朝会やTV朝会で児童向けに挨拶。学級でのお別れ会を設定してくれる学級もある。いずれの場合も心の準備をして臨むこと。

学校から借りた資料や教材，教具を元の場所に戻す。また，控え室，ロッカー，靴箱の清掃をする。最後に，校長先生，教頭先生，教務主任，指導教諭に丁寧にお礼を述べる。最終の実習日誌を提出し，その日誌を後日受け取りに登校することになるが，その日時を確認する（郵送してくれる場合もある）。

《実習生の一日》

	要　　点	配　慮　事　項
出勤	少しずつ学区を知る。出勤簿押印	通学途中で学区の観察（状況把握） ・子どもの登校観察（安全面） ・道で会った子への声かけ
朝	教室で子どもを迎え，つながりを深める	・教室の換気・採光・安全面の点検 ・登校してきた児童一人ひとりに声かけ（子どもの話題に合わせる） ・提出物を集めまとめておく（お金は扱わない）
職員朝会	今日一日の行事や教師の動きを理解する	・職員室入室時は元気に挨拶する ・５分前には席に着き，メモの用意 ・指導教諭と今日の実習予定について打ち合わせ
学級朝の会	健康観察と連絡事項を含めた指導	・一人ひとりの顔色，声，体調等を出欠と共に観察 ・朝の歌などで脳の活性化 ・今日の予定を伝え必要事項は板書したりメモを取らせる
授業	子ども理解と授業の進め方観察実習 楽しく・分かりやすい授業をする	・視点に即して記録を取りながら，児童観察 ・子どもの興味・関心・意欲を引き出すような工夫と，活動を通して学ばせる工夫 ・わかるまで丁寧に指導する

休み時間	子ども同士のつながりを深める遊びの指導	・クラス全員を誘って遊ぶ ・仲間に入れない子への配慮 ・怪我や争いごとの対応 ・係り活動の指導や授業の準備。体育時は，用具や器具の安全点検をする
教室移動	静かに素早く行動させる	・廊下に素早く静かに整列させる ・他の教室へ迷惑をかけないよう静かに移動 ・特別教室まで付き添い，着席させた後，授業の準備を手伝う
給食	楽しい会食と食事マナーの指導	・給食準備の手伝い。特に熱い物への安全確認と後始末の徹底 ・トイレ，手洗い，配膳時の衛生指導 ・食物アレルギーを持つ子へ注意 ・毎日別のグループで食事をし，親近感を深める
清掃	一人ひとりの役割指導	・時間内に終了させる ・ふざけやなまけを注意する ・割り当て箇所が終了したら報告させる
学級帰りの会	一日の反省と明日の予定や授業準備について伝達	・今日一日の頑張りを賞賛 ・配布プリントの説明と明日までに準備するものの伝達 ・下校中の交通事故・不審者への指導と注意 ・玄関まで見送り，明日も元気に登校するよう声かけ
諸会議・打ち合わせ	学年による学習進度と行事の打ち合わせ 実習打ち合わせ	・５分前に指定された場所へメモの準備をして集合 ・必要事項・重要事項は洩らさず記録
放課後	今日の反省をし，実習日誌へ記録 明日の実習準備	・残留児童の個別指導や係り活動の指導 ・教室掲示の張替え ・学級事務の手伝い。教材教具の整頓と授業準備
退勤	身の回りの整理・整頓	・机上整理，ゴミの後始末をする ・実習日誌を指導教諭へ提出する ・職員室で先生方へ挨拶

13，巡回指導

本学では，道内出身者は母校実習，道外出身者は滝川近隣の学校での実習を行っているが，この目的は，大学の夏期休業中に教育実習を行うことにより普段の講義と重ならないメリットを生かしている。巡回指導は，児童コースの教員３名が手分けしてすべての学校を訪問している。訪問は，原則一回だが，主に，教育実習生の授業研究参観，実習生との面談・指導，管理職との話合いも行っている。

14，事後指導

事後指導の方法としては，教職実践演習・ゼミII・教育方法論の講義の中で教育実習の成果の確認や課題解決に向けた模擬授業や研究協議を行っている。また，成果報告という形で

例年，実習校の先生方や教育委員会の関係者を招へいし，初等教育研究会報告会を開催するとともに研究会誌を発刊し近隣学校や教育委員会に配布している。

以上が教育実習に当たっての事前指導の概略である。学生も教育実習に当たっては，他の講義と比べ緊張の中で事前指導について真摯に受け止めている様子を強く感じる。

II　自己評価票の取組

ここまで，大学での指導内容について記述してきたが，ここからは，学生の自己評価について記述していく。本学では，教育実習後，学生に自己評価を実施し，教職実践演習等において教職への質の向上を図る取り組みを行っている。

次の表は，５段階評価に沿って自己評価を行い，その結果を％で示した。また，成果と課題を記述式で取りまとめた。

自己評価票の集計結果について（平成26年度～平成28年度の３か年）
教育実習　自己評価票集計表

評価項目	主　な　観　点	実施年度	評　価　％				
			5	4	3	2	1
I 教材研究	1．教科書の内容分析	26年度	23	62	15		
		27年度	21	58	21		
		28年度	19	60	21		
	2．学習指導要領の理解及び指導計画等の検討	26年度	12	47	41		
		27年度	5	37	53	5	
		28年度	14	45	35	6	
	3．学級の実態に即した教材の開発・工夫	26年度	65	35			
		27年度	58	37	5		
		28年度	24	66	10		
	4．単元設定理由の作成	26年度	21	62	17		
		27年度	16	58	26		
		28年度	14	55	31		
	5．教科内容に関する専門性	26年度	20	60	20		
		27年度	21	58	21		
		28年度	9	65	21	5	
II 指導計画の立案	1．本時の目標と評価の設定	26年度	64	25	11		
		27年度	53	26	21		
		28年度	29	50	16	5	
	2．目標に応じた学習過程の構想	26年度	52	43	5		
		27年度	47	42	11		
		28年度	33	60	7		

	3．発問・助言等と反応予想	26年度	26	52	22		
		27年度	21	47	32		
		28年度	9	50	35	6	
	4．教材・機器等の準備，板書計画等の立案	26年度	23	67	10		
		27年度	21	63	16		
		28年度	39	35	22	4	
Ⅲ 学習指導と評価	1．発問や言語の明瞭さ，文字の正確さ	26年度	13	46	17	24	
		27年度	11	42	21	26	
		28年度	9	50	41		
	2．児童一人ひとりを大切にした受容的な姿勢	26年度	45	23	35		
		27年度	47	16	37		
		28年度	19	50	27	4	
	3．教材・機器等の活用，効果的な板書	26年度	42	52	4	2	
		27年度	32	46	11	11	
		28年度	29	45	22	4	
	4．児童の反応への適切な応答	26年度	32	45	23		
		27年度	37	47	16		
		28年度	9	35	45	11	
	5．授業中及び授業後の適切な評価活動	26年度	35	37	20	18	
		27年度	26	37	26	21	
		28年度	14	35	30	21	
Ⅳ 生徒指導	1．生活場面での児童との関わり	26年度	83	17			
		27年度	74	26			
		28年度	54	42	4		
	2．学級指導および教室環境への配慮	26年度	57	41	2		
		27年度	53	37	10		
		28年度	24	55	17	4	
	3．観察に基づく個と集団の課題把握	26年度	51	43	6		
		27年度	47	42	11		
		28年度	38	55	7		
	4．道徳・外国語活動・特別活動への参加	26年度	48	36	16		
		27年度	47	32	21		
		28年度	24	55	17	4	
Ⅴ 勤務態度と実習への意欲	1．出勤の状況（無断欠勤，遅刻等）	26年度	100				
		27年度	100				
		28年度	96			4	
	2．指導案・日誌等提出物の提出状況	26年度	75	25			
		27年度	74	21	5		
		28年度	74	26			
	3．協働的な姿勢・コミュニケーション力	26年度	73	23	4		
		27年度	63	26	11		
		28年度	37	55	8		

	4．人権等への配慮と規範意識	26年度	67	28	5		
		27年度	63	26	11		
		28年度	47	45	8		

成　果	・毎日の日誌は，指導教官の先生は，しっかりとコメントしてくださり，一生の宝物になった。 ・積極的に子どもたちと関わろうと努力・工夫することが出来た。 ・子どもの発達段階に応じた勉強の教え方がわかった。 ・教師という仕事を学ぶことが出来た。授業だけでなく他の面での仕事内容なども。 ・教材研究は，誰よりもやった自信がある。 ・実習に行く前に私の目標である児童と積極的にコミュニケーションを図るということが達成できた。 ・教具作りをしたが児童に有効活用出来ていなくて何度も作り直し，意味のある教具を作ることが出来た。 ・授業での自分らしさを出すことが出来たのですごく良かった。 ・板書を褒めていただいた。 ・児童との信頼関係が築けた。 ・児童と楽しく授業をする方法を学ぶことが出来た。また，楽しく授業を展開することにより理解力も深まり，様々なキャッチボールも出来た。 ・生活面において，児童理解を深めるための活動は効果的に行えたように思う。（遊びを中心に観察した） ・児童との触れ合いの中で児童の実態や特徴などを理解することができた。 ・指導教諭の授業を見学することで姿勢指導の大切さを学んだ。 ・大学での教材研究の段階では，深い部分まで考えきれていないところがあり，教材研究が不足していたと感じた。しかし，実際に子どもたちと触れあうことで以前よりは，児童の実態に合う授業を構成することが出来るようになった。 ・勤務は，意欲的に取り組むことが出来た。 ・学習指導では一人一人の児童の進み方や学び方を知った上で指導が出来た。 ・課題解決に向かっての過程を大切にすることができた。 ・国語で１単元をしっかり最後まで指導することが出来た。
課　題	・授業での評価活動を更に行えると良かった。 ・自分自身の教科・単元理解がまだ足りないと感じた。 ・来年度から教員として社会に出られるようにもっと勉強しなければいけないと思った。 ・教材をもっと研究し，深めることをしなければならないと思った。 ・今後の課題は，クラスの中での学力差をどのように理解して授業を進めていけば良いかの追求。 ・指導に関しては，指導案の内容の薄さが明らかになった。 ・教育実習生のリーダーとして役割をしっかり務めたかった。 ・まだまだ，児童の発言を拾うことが出来ないので意識をしなければならない。 ・音声・言語・文字の明瞭さと正確さが足りない。 ・指導案の作成，再構成が甘かった。 ・課題提示がタイミング的にうまくいかなかった。 ・つまずいている児童への対応→１対１で教えたり放課後指導 ・生徒指導で注意することが苦手なため，授業と休み時間のONとOFFの切り替えがうまく出来なかった。 ・授業における児童の反応や予想や問題解決へ向けた手立てについては，不足していた。（発問の仕方，声かけの仕方など） ・授業をしながら児童の実態に合わせて，柔軟に対応できるようにしたい。 ・板書のバランスや筆順を改善する必要を強く感じた。 ・授業のペース（時間配分）をもっと意識すべきであった。 ・生活面では，強く注意したり，叱ることができず苦労した。今後の課題。

28年度自己評価票から読みとれることとしては，７項目が平均90％程度の結果を残した。特に，Ⅰ教材研究に関しては，「学級の実態に即した教材の開発・工夫」90％，Ⅱ指導計画の立案に関しては，「目標に応じた学習過程の構想」93％，Ⅳ生徒指導に関しては，「生活場面での児童との関わり」ついては96％という数値を出している。Ⅴ勤務態度と実習への意欲に関しては，全てが90％を超えている。

しかし，課題としては，Ⅰ教材研究に関する「学習指導要領の理解及び学校指導計画等の検討」が59％と低く，大学での学びの改善が必要であることが明らかになった。また，Ⅱ指導計画と立案「発問・助言等と反応予想」については，59％と，Ⅵ教育実習生自身が感じた成果と課題～教育実習を終えて困ったこと，注意されたこと～にも記述されているように課題となった。Ⅲ学習指導と評価に関する「発問や言語の明瞭さ，文字の正確さ」については，以前より実習校からの要望が常に出ることから，各講義で指導をしてきているが，筆順指導等，基礎的な学習を各講義の中に組み入れ授業の基本でつまずかない学生を各実習校に送る必要がある。さらに，Ⅲ学習指導と評価に関しては，「児童一人ひとりを大切にした受容的な姿勢」「授業中及び授業後の適切な評価活動」が，60％台であった。評価活動については，各教科の概説や指導法で取り組んでいるが，苦手意識があり，講義での定着率が低いことが判明した。評価活動については，さらに充実を図り，次年度につなげたい。

記述式の成果からは，子どもたちとの関わりや児童理解に関して成果があったことがわかる。学習指導においては，大学での模擬授業との大きな違いを感じたようである。目の前に子どもがいる状況は，大学での学生を前にした授業では，反応も発問の仕方もおのずと違い戸惑いもあったようである。しかし，その中で，授業の流れの大切さや一人ひとりを大切にした授業展開を学んできたようである。

課題から読み取れることは，それぞれの教科に対しての理論的なものを含め知識が足りないことを痛感したようである。指導案については，大学での指導法を中心に作成し，模擬授業を行う機会が多いが，今後の学習では，子どもの反応をさらに細かく分析する力をつけ，よりよい指導案を作成できる学生を増やすことが課題である。また，子どもに対して注意する，叱るということがなかなか出来なかったという反省もあり，児童理解に立った生徒指導の充実も課題となった。

Ⅲ　実習における研究課題に対する自己評価

教育実習前に各自教育実習中に取り組むべき研究課題を設定させている。研究課題の到達度を分析することにより学生は，今後の大学での自己課題が明らかになるとともに，教えるべき教官も後期の教職に関する講座の中でこの結果を生かしていくことが出来る。ここでは

いくつかの研究課題とそれに対する自己評価を紹介する。

研究課題

子どもたち一人ひとりと多くのコミュニケーションを図りながら教師としての関わり方を学び，子どもたち一人ひとりを理解できるようになる。そして，子どもたちの「できる」「わかった」という気づきが多く生まれる授業が出来るようにする。

自己評価

子どもたちと多くのコミュニケーションを図ることや一人ひとりを理解しようと努めましたが，子どもたちの方から寄ってきて自分のことを教えてくれた子が多かったため，そこで気づいたことが多かったように思います。しかし，一人ひとりの内面や背景を見抜くことは難しかったように思います。また，授業に関しては理解できずにそのままにしてしまった子をつくってしまうことや，「わかる」を目指しているのにもかかわらず混乱させてしまうこともありました。全員が理解できるために本当に簡潔にわかりやすく，シンプルに伝えたり学ばせていくことが大事だと学びました。教師になった際は，達成できなかったこの課題を生かして解決していきたいと思いますし，これからも追究していきたいと思います。

研究課題

より多くの児童と接する。そして，多くの児童の側に寄り添いたい。まだまだ，私が技術的なことを指導するのは自分一人では難しいと思うが，児童それぞれの魅力や思いを発見する。3週間という短い期間ではあるが，児童理解をきちんと行う。

自己評価

多くの学年の児童達と接することが出来たと思います。主に低学年の児童とは中休み，昼休み，ほぼ毎日，外で遊びました。接して行く中で児童一人ひとりの魅力に気づくことが出来ました。一生懸命何かに打ち込む姿や子どもらしく活動や遊びに夢中になる姿。3週間という短い期間ではありましたが，色々な面を見ることが出来て良かったです。児童全員とはいきませんでしたが，学級の児童の実態を把握し，どんな児童かということを少し理解したつもりです。それぞれに合った授業が出来れば理想的ですが，まだまだ技術不足な部分が目立ったような気がします。

研究課題

①現代の教育現場における教師の支援の在り方，教師の役割を把握する。
②わかりやすい，楽しい授業の在り方を現場の先生方の姿から学び，吸収する。
③毎日，課題をもって教室に入り，自己反省をすぐ生かす。

自己評価

①現代の教育現場における教師の支援の在り方として中核に据えられているのは，組織的な対応と連携であると感じました。学級の問題は同学年の先生，教頭先生や校長先生と共有し，組織的に対処していく場面を何度か目にしました。先生同士がコミュニケーションを大切にし，児童の様子を日々報告し合うことで，児童理解も深まり，適切な対応につながるのだなと思いました。私も指導教諭の先生と学級の児童の話を共有することで，接し方にゆとりができ，問題もなく過ごすことができたので，何でも一人で解決しようとするのではなく，連携することが大切なのだと思いました。

②わかりやすい，楽しい授業の在り方としては，児童の活動を中心に授業を展開していくことだと思いました。児童が実際に体験する場が組み込まれていたり，発言の機会が多くある授業では，児童が「わかりやすい」「楽しい」と感じているであろう様子が見受けられました。児童も活動することで自己存在感を感じながら授業に参加し，実感を伴った理解にもつながるように感じたので，私も授業を構成する際は，線を引いたり読んだり書いたり，発表したりする場を多く作ろうと思いました。わかりやすい授業のために欠かせないことはやはり，教材研究でした。教材を読み込み，児童がつまずきそうなところをどう工夫して伝えるか，児童の目線に立ち，考えることだと感じました。また，授業でうまくいかなかったことなどは文字にして残しておいて，改善点をその日のうちに考えること，そしてその改善点を取り入れて授業で試してみること。わかりやすい授業というのは，日々の試行錯誤の繰り返しでいつの間にかその先生の授業展開として確立されているもののように感じました。

③3週間，私は毎日課題をもつて実習に臨みました。座席表を見ないで名前を言えるようにしよう，4年2組の板書の仕方を把握しよう，児童の交友関係を把握しようなど様々です。授業が始まると，授業の進め方，発問の仕方，板書の仕方などノートを見ながら振り返り，改善点を考え，次の日の授業に取り入れるよう心がけました。毎日課題をもって実習に臨むことでメリハリがつき，課題解決のため向上心をもって取り組むことができました。

研究課題

①教育活動についての理解を深める。
②実習を通して，教師になるための知識技能を習得する。
③常に目的意識をもって取り組む。

自己評価

前日に明日の課題を立てることで常に意識をもって実習に取り組むことが出来た。実習を通してたくさんの技術を見て自分の行う授業に少しでも生かすことが出来たと思う。まだまだ学ぶことはたくさんあり今回の3週間という短い期間では全然足りないが，少しでも教師という仕事について学ぶことが出来た。児童に対する姿勢や学級の形は先生によって全く異なることを実感した。教育活動という全体的なことはまだ分からないが，自分の今後やどのように児童と接していったら良いか，というような形は少し見えた気がする。

研究課題

①児童主体の授業づくりの工夫。
②児童との効果的なコミュニケーションの方法。

③児童との人間関係，信頼関係のつくり方。

自己評価

「児童主体となる授業づくりの工夫」については，指導案を作って授業をするということに精一杯で，授業づくりの中で工夫することができなかった。授業の中でも説明が多くなり児童の思考，作業時間を奪ってしまうことが多かった。児童の時間を保証できるような授業づくりを今後していきたい。「児童との効果的なコミュニケーション」，「児童との人間関係，信頼関係のつくり方」については教師という立場において，児童との適切な距離がつかめず，最後まで友達のような関わり方をしてしまった。しかし，授業中は教師としての接し方に注意することができたと思うのでそこは良かった点として挙げられる。

Ⅳ　教育実習期間に指導教官から指導を受けた内容

教育実習期間に教育実習生が日々，指導教諭から多くの指導を受けた。大学で行う模擬授業との大きな差は，目の前に子どもたちがいることである。学生の自己評価と指導教諭による指導内容を見ることにより個々の学生の成果と今後の課題も明らかになった。また，大学で指導している教官の指導内容の改善にも大いに役立つものであった。ここにいくつか事例を抜粋して紹介する。

○教育実習生

実習初日ということで大変緊張しましたが，あっという間の１日でした。先生をはじめクラス全体で温かく迎えていただき，嬉しさと安堵の気持ちでいっぱいになりました。少しでも早く児童の名前を覚えて仲良くなり，たくさんのことを学びたいと思っています。これから３週間宜しくお願い致します。

指導教諭

緊張の中にも落ち着いた言葉遣いと子どもたちへの笑顔が見られ教育実習へのやる気が感じられました。金曜日までにクラスの子どもたちの顔と名前を覚えられるように子ども達とかかわってほしいと思います。３週間という期間なので出来ることを早めに進め，最後まで体調を崩さず，充実した実習になることを期待しています。

○教育実習生

今日は，朝の会の指導，１年１組と２年２組の算数の授業参観を行いました。算数の授業を多く行う予定なので，大変参考になりました。朝の会，実際に行ってみると全くスムーズに出来ませんでした。自分の未熟さを改めて痛感しました。明日の朝の会では今日の反省を生かしていきたいと思います。

指導教諭
お疲れ様でした。蒸し暑い中，本当にご苦労様です。今日から１日に一つ指導する場面を設定し今日は，朝の会を行ってもらいました。個々の教師には色々なキャラクターがありますが，やっぱり若いうちは，子どもの声に耳を傾け，笑顔で元気に進めて行くのがいいんじゃないかと思います。連絡事項などはしっかり伝えられていました。明日の帰りの会では，さらなる成長に期待しています。指導案はとても素晴らしかったです。少しの手直しで済んでしまうのが先生のすごいことなのでこの調子で頑張ってください。

○教育実習生

今日は，国語の「みじかい言葉で」（詩）の授業と給食指導を行いました。授業を行って分かったことは，もっと児童の目線に立たなければならないということです。テンポ良く授業を進めて行くこと，指示をもっと細かく出すことが達成出来ませんでした。また，発問・課題をもっと分かりやすく伝えなくてはいけないと思いました。明日は，きちんと修正していきたい。

指導教諭
実習お疲れ様です。明日が中日で折り返しになります。あっという間にここまで来ましたが，どうですか？　あと１日で休日ですので最後の力を振り絞って頑張りましょう！　国語は算数と違って答えが一つではなかったり，考えることが多い分，授業は広がりを見せる一方で子どもたちはやるべきことに迷ってしまいがちなので今日の反省で伝えたことを意識して次に生かしましょう。休み時間などであまり関わりの薄い子と授業を通して関わることも出来るのでそのチャンスを逃さずたくさん交流をしてあげてください。

○教育実習生

今日は，大学の先生を招いて，算数「水のりょう」の発展問題の授業と研究授業の模擬授業を行いました。今日知ったことは，学級全体を理解させる難しさです。勉強が得意な児童だけで今日は授業を進めてしまったと思うので，そうでない児童をどのように授業に取り込んでいくかということも今後考えていきたいです。明日も模擬授業をさせて頂けるということなので今日指摘して頂いた箇所をしっかり改善していきたいと思います。

指導教諭
今日の２時間の算数は，全国学テでいうとＢの問題で，発展的な内容でしたね。難しい内容でしたが，先生のスモールステップでの指導により半数以上の子が理解していたようです。金曜日の研究授業に向けて模擬授業を行いましたが，気をつけることは，「発問・指示・説明は簡潔に!!」です。まだ時間があるので頑張りましょう!!

○教育実習生

今日は，２年２組での模擬授業と給食の時間・帰りの会の指導を行いました。実際に児童を前にしてみると予想外のことが起きたり，指導案通りにはいかなかったりしましたが，大まかな流れはしっかり出来たので良かったです。今まで指摘して頂いたことをしっかり頭に入れて研究授業に臨みたいと思いますので宜しくお願いします。

指導教諭

月曜日に指導案検討，火曜日に模擬授業Ⅰ，水曜日に模擬授業Ⅱ，そして，今日は２の２での授業と計画通りここまで進められたことがとても素晴らしいです。しかも，修正すべき箇所をきちんと直すことが出来ている先生は，よく頑張っていると思います。余裕を持って明日を迎えられますね。研究授業では，授業力だけでなく，先生と子ども達との人間関係も見えてきます。子どもたちと関わってきたことに自信を持って頑張ってください。

○教育実習生

最終日です。今日は朝の会，帰りの会。給食の時間の指導と算数「三角形と四角形」，折り紙を使って三角形と四角形をつくる授業を行いました。最終日らしい締めくくりが出来たかは分かりませんが，学活のお別れ会ではみんなが一生懸命発表し，別れを惜しんで泣いてくれて本当に嬉しかったです。３週間，幸せでした。有り難うございました。

指導教諭

実習最終日お疲れ様でした。終わってみるとあっという間の３週間ですが，きっと体力的にはきつかったのではないですか？　特に小学校の教員は「声を大きくすること」と「体力をつけること」が何よりも大切だと思います。子どもたちに元気を与えるためには，先生にも元気が必要です。「元気があれば，何でも出来る!!」ので，体力勝負です。この３週間の教育実習が先生のこれからの教員生活に少しでも役立てば嬉しいです。本当にお疲れ様でした。

○教育実習生

初の授業をさせていただき，緊張と不安でいっぱいでした。また，児童の反応もどんな答え方をするのかなと思っていました。実際にやってみると想像以上に私が出来ず難しく私の目標としている児童の〝できた〟〝わかった〟という気づきを生み出すことが出来ずに終わってしまいました。児童の口から引き出せるよう問いかけをしたり，発問をしようとしても，焦ってしまい細かい配慮が出来なかったり，何を学んだのか，学ばせたかったのか児童にうまく伝えることが出来ませんでした。全てが反省です。授業を終わってみて研究授業や明日以降の授業もとても不安になりました。しかし，悪かった箇所を分析して次に生かせる

ようにしたいと思います。ただ，給食の際に「先生ずっといてほしい。」と児童に言われたことがとても嬉しく，落ち込んでいた私を救ってくれました。

指導教諭

今日は，初めて授業実践で思うようにいかなかった部分などを反省する中で今後の課題が見えてきたと思います。声の大きさや，目線，間の取り方はとても良く，導入では子どもたちが先生の話に引き込まれていました。展開の場面では焦りが出てしまい，終わった後に落ち込んでいましたが，日誌に書いてあった通り，子どもたちは先生の誠実な姿勢が大好きなので，授業が終わった後も，笑顔で迎えていました。子どもたちを大切にし少しでもわかる授業を作っていきたいという一生懸命な姿勢が伝わっているのだと思います。このように授業をよく研究し，実践し，反省を繰り返す中で，私も先生と共に学んでいきたいと思います。今日で少し緊張がほぐれたことと思いますので，明日からも笑顔で頑張っていきましょう。

○教育実習生

今日の授業では，自分に焦りや不安があり，上手く子どもたちに伝えられなかったり，実演の際にはピッタリ測定する量が合わず誤差で子どもたちに伝えてしまったことをとても反省しています。また，子どもたちの発言から出た問題（質問）を後にでもくみ取ってあげて解決に導くことが出来なかったこと，ノート指導の注意を言い忘れてしまったことなど多くの反省がありました。しかし，その中でも授業中に練習問題をやった時，何人かを机間指導で少しのサポート，声かけをした際に「あ！」とか，「1L5dL」とひらめいたり，答えが出てきて「わかった」と感じてくれたのかと思いました。授業はまだまだですが，少しでもそのような気づきが生まれたことが嬉しかったです。そして，今日は理科の授業を見せて頂き，大変勉強になりました。いつか，私も指導の先生のような理科の授業が出来るようになりたいとおこがましいですが，そう思いました。

指導教諭

昨日の打合せで今日の算数の授業について不安要素を持っているように見えましたが，先生の反省にも出ていた通り，不安感が授業に出てしまったのかもしれません。授業は進め方について自分が納得し，流れを理解していないと自信を持って説明出来なくなってしまいます。授業の入りは，今週１週間授業を頑張って来た成果が良く出ていました。先生が自信を持って発問をすると子どもたちが元気よく応えていました。しかし，途中でのミスに焦りが出たり迷いが出てしまったことで，後半は先生自身が元気がないように見えました。せっかくの実習期間なので思い切り声を出したり，大袈裟に演技をしてみると良いと思います。放課後に私と話す先生の明るい話し方を授業で出していくと先生の良さが出た授業が出来ると思います。来週も頑張りましょう。

○教育実習生

今日は，研究授業ということもあり，朝からとても緊張していました。しかし，朝，子どもたちの顔を見てとても元気をもらえましたし，今日のめあてを見て本当に子どもたちが協力しようとしてくれていることが嬉しかったです。授業でもしっかりと良い姿勢で受けて，集中しようとし，私を助けようと頑張っている子どもたちに本当に感謝の気持ちでいっぱいです。授業が終わってから励ましてくれる子や手伝ってくれる子，帰りの会では少し寂しがってくれている子もいて，本当に良い子達に囲まれて学ばせて頂いたなと改めて感じました。そして，指導の先生をはじめ，２年生の先生方に多くのご指導を頂いたことで今日の研究授業が迎えられたと思います。本当に有り難うございました。今日までの道のりを必ず将来に生かせるよう頑張っていきたいと思います。

指導教諭

研究授業お疲れ様でした。授業の入りに勢いがあるだけでなく，活動する内容，ルール確認などがしっかりされていて，子どもたちが何をやればよいか明確でした。不安要素であった時間配分やまとめの部分については，指導案を作成する上で工夫が必要であったと私も反省しています。作業が遅い子への手立ても工夫の余地があったと感じました。このように授業は，完璧に出来るということはおそらくなく，反省，実践を繰り返していくものだと思います。今日の目標であった子どもたちと目を合わせながら元気に自信を持って授業をすることが出来ていて，子どもたちも応えるように頑張っていました。子ども達が先生とこれまで過ごしてきて，先生の人間性に惹かれ信頼関係を築くことが出来ていたからこそ子どもたちは一生懸命取り組んでいたのだと思います。この研究授業をスタートとし，夢へ一歩ずつ進めるよう精進していきましょう。

○教育実習生

今日は，最終日ということで子どもたち一人一人とお話しできるように，そして，何か伝えられるようにということを考えていました。今までの授業の中で今日の道徳が一番伝えられる授業が出来たかなと思います。子どもたちから休み時間に，たくさんの折り紙をもらったり，お話をしてくれたり，本当に素敵な時間を過ごさせて頂きました。最後，子どもたちへの挨拶では，自分の気持ちが抑えられず言っていることも伝えたいことも伝えきることが出来ませんでした。ただ，子どもたちの言葉や素敵な歌声は心に響き，優しい気持ちがとても伝わってきました。本当に今日まで一緒に頑張ってくれたみんなに出会えて幸せでしたし，有り難うという気持ちです。そして，このような素敵な贈り物や今までたくさん一緒に考えてくださった指導の先生に本当に感謝の気持ちでいっぱいです。本当に有り難うございました。

指導教諭

楽しい時間は，あっという間に過ぎてしまうとよく言いますが，実習３日目に実習期間が終わってしまうことが悲しい，実習はとても楽しいということを話していたのを思い出します。その後，毎日１時間～２時間の授業実践を重ねていき，合計13時間の実践を行いました。課題が見えてきて，どのように改善していくか悩んだり，遅くまで残って準備したりで，体力的にも精神的にも大変だったと思います。しかし，いつも前向きに努力し，子どもたちといつも笑顔で過ごしていたことに感心しました。また，準備を怠らない点や，様々な先生方の取り組みから謙虚に学ぶ姿勢，授業中に自分のこだわりや意思を入れるところも先生が成長できる大きな要素の一つだと思います。実際の教育現場では，子どもたちは，様々な事情を抱えていますし，家族や地域，教職員と連携しながら学級経営を行っていかなければなりません。大きな責任が伴い大変なこともたくさんありますが，とてもやり甲斐のある職業だと思います。先生が教員として活躍される日を楽しみにしています。

Ⅴ　教育実習生自身が感じた成果と課題

教育実習を終えた学生に実習中の学びや感想を書かせ，教職実践演習等で深めていった。以下，そのまとめである。

１，教育実習を終えて良かったとおもったこと

２，教育実習を終えて困ったこと，注意されたこと

上記の項目を，生徒指導関係・学習指導関係・実習態度関係の３点について自己評価を行わせた。

３，教育実習をより充実したものにするために事前に準備しておけばよかった事，学んでおけば良かった事は何ですか

１，教育実習を終えて良かったとおもったこと

(1)　生徒指導関係

○子どもたちへの指導の仕方を学んだり，担任の先生方が指導している場面を見て，学ぶことが出来たことです。
○子どもたちの背景を知った上でどう手立てを打てば良いか考えたり，学んだりすることができたことです。
○最初は不安でしたが，休み時間一緒に遊んだり，コミュニケーションをとっていく中で私の授業で頑張ってくれていることを感じ，その姿が本当に嬉しかったです。また，他の学年と多く関わることで学年によって違うことが直接実感できました。
○問題を起こしたり，授業に参加しない子がいた場合，ただ，頭ごなしに叱るのではなく，何が悪いのか，どうしたら良いかを問いかけてみると良いということを学べました。特に，困り感があったりする子へはそういう対応が大切だと思いました。
○最初は，子どもたちに指導や注意をすることが出来ませんでしたが，担任の先生の指導や先生

の指導を観察することにより，徐々に指導や注意が出来るようになりました。

(2) 学習指導関係

○わかりづらかったり，疑問が多くあったかもしれないのに私が授業する時には喜んでくれたり，「楽しい」「あ！わかった」と言ってくれた時や次の時間の復習等で授業の内容をしっかり理解していてくれてやりがいを感じました。
○机上の整理を促す，発問や指示を端的に行うなど現場でなければ分からないことを多く学べました。
○個別指導をする時，その子がどこでつまずいたかを把握し，それに合ったアドバイスをすることの大切さを学びました。
○私は，算数の一つの単元を任せてもらったので，一人ひとりの学習状況を把握することが出来ました。従って，その児童によって発問や難易度を変えてみたり，子どもにとって苦手な部分は深く丁寧にやるなど，児童の実態，状況に合わせて授業展開していけたと思います。
○１年生でしたので授業時には，絵やキャラクターつきのプリントなどを用意し，子どもが集中して話を聞くように工夫したことです。指示を一つ一つ出し，発問の時には，全員が前を見てから行うよう意識しました。

(3) 実習態度関係

○担任の先生以外の先生方にも色々な話を聞かせて頂いたり，励まして頂いたこと，アドバイスをしてくださったことです。
○社会人のマナーやルールを少しは学べたと思います。担任の先生から指示されるのではなく自分から積極的に授業実践や学校のしくみなどを聞くことが出来たと思います。真摯に子どもたちに向き合っていると，担任の先生がクラス内の事情について話して下さることもありました。
○実習中は，教師・児童に大きな声で挨拶しようということを一番に心がけました。また，休み時間は，子どもたちと必ず遊ぶようにしていました。その時に，普段外で遊ばない子にも声をかけ，なるべくクラス全員が一緒に遊ぶ状況を作るようにしました。
○態度や姿勢は，自分自身として良好だったと感じています。分からないことは抱えずに積極的に先生に聴き，時には自分で解決をしました。終始，積極的に学び取る姿勢で挑めました。
○常に見られているという良い緊張感を持って教師らしい態度で常にいようという意識が生まれました。目上の人に囲まれた中での言動について意識することが非常に多く，社会に出た時の社会人としての振る舞い方が身につきました。

2，教育実習を終えて困ったこと，注意されたこと

(1) 生徒指導関係

○２年生は，ケンカが多く，小さな事でもケンカをしてしまい，その解決の手立てが困りました。大学で学んでいる事も実際の子どもの状況を前にすると出来なかったり，どうお互いが納得できる解決をしたら良いかが難しかったです。

○6年生でしたので子どもたちから話しかけられることはあまりないことが一番大変でした。周りの目を気にしたり恥ずかしがったりしているのが日を経るにつれ分かりました。距離感を縮めていくのが大変でした。
○消極的な子どもは，自分から教師に働きかけないのでこちらから積極的にコミュニケーションを取ることが大切だとアドバイスされました。もう少し，子どもに対して注意や指導する力が欲しいと思いました。
○実習が始まって2，3日経過した日に，遊びでケンカになりそうになったことがあり，生徒指導にもかかわらずその場でなだめることしか出来なかったことが一番困ったことです。
○はじめ，関係がまだ出来ていない時に，注意してもなかなかきかず苦労しました。やはり，寄ってくる子との関わりが多くなってしまうのでもう少し寄ってこない子に自分から話しかける姿勢が必要でした。

(2) 学習指導関係

○想像もしていなかったような子どもたちの発想・発言に対応するのが大変でした。自分自身が知らないような言葉や，子どもたちが知らない言葉をわかりやすく説明（突然聞かれた時）するのが困りました。
○導入からまとめまでが，しっかり一つにつながり，子どもたちが理解するような授業が出来ず苦労しました。
○理解していない子や計算が苦手な子を置いていってしまう場面もありました。発問が難しく伝わらないことや，上手く教えられないことがあり，学習の系統性などをよく考え，自分自身も十分理解しなくてはならないと思いました。
○授業中の説明や発問を簡潔にすることが出来ずに長々と話してしまい，児童の活動の時間を奪ってしまったことが多々ありました。児童の進行具合や理解の速度に合わせて授業を進めることが出来ずにバラバラになってしまうことがありました。児童の意見を取り上げる時に，適切な取り上げ方が出来ずに，多少強引に進めてしまったことがありました。
○発問の難しさでした。私は，こう言えば伝わると思い発問をするのですが，児童は分かっていない様子で何度も言い直しました。その時は，やっとの思いで伝わりましたが，その後，担任の先生から何度も言い直すことが逆に児童を混乱させると指摘されました。

(3) 実習態度関係

○一度だけ帰りに窓の鍵を閉めるのを忘れてしまい，注意されました。
○発問内容には最後まで悩まされました。自分が考えていた流れにすることが出来なくなってしまう事もありました。
○指導案や日誌を出来るだけ正確に，また，早く提出出来るようにした方が良かったが，少し遅れたり，抜け落ちている時があった。
○言葉遣いや書き順など，もう少し気をつけなければならないと思いました。子どもたちとの約束を一度破ってしまったことがあったので約束は，しっかりと守ることが大切だと改めて感じました。
○児童から離れた時（職員室にいる時など）に気が抜けていたらしく，疲れていそうだけど大丈夫？と，心配されてしまったことが何回かありました。

次に，各自の自己評価をもとに次年度の教育実習の質を高めるために「先輩から後輩へ伝えたいこと」ということで記述してもらった。

教育実習を終えた2年生から1年生へのアドバイス

〈基本的事項について〉

・実習生が持っている物にはなんにでも興味をもつので，持ち物や身に着ける物に気を付ける。
・備品や借りた道具は丁寧に扱う。
・学ばせてもらっているという意識を常に持ち，授業以外でも多くの事を吸収する。
・教育実習で大切なことは，自らが楽しむこと，私たちが児童から教わることは少なくない。児童と信頼関係を築くことによって子どもたちが心の支えになる。
・仕事や人間関係で大切な「ホウレンソウ（報告・連絡・相談）」は，教育の場でも変りはない。また，他の実習生や先生方との情報交換は，自分がミスをしない予防策ともなる。
・教育実習を通して何を学びたいのかを明確にし，それを達成するための手立てを考えておくことが重要。
・学校の先生方や保護者，児童に会ったら必ず挨拶する。
・無断欠席，遅刻は，厳禁。
・控室は，整理整頓して使用する。
・指導教諭の指示を待つのではなく積極的に行動する。
・先生方のアドバイスには真摯に耳を傾ける。
・出勤時には，「おはようございます。今日も一日よろしく願いします。」，退勤時には，「今日も一日ありがとうございました。お先に失礼します。」
・指導教諭との連携をしっかりとる。
・自分に教育実習をやり通せるか不安だと思う。実際学校へ行き，先生方の指導を見ると，驚きと緊張で何も出来なくなるが，落ち着いて冷静になることが大切。
・出勤時間の15分から20分前には学校に行く。
・授業参観・講話・研修がある時は，必ずノートと筆記用具を持参すること。

〈児童との触れ合いについて〉

・母子家庭や父子家庭の児童がクラスに何人か在学しているので授業中や普段の会話は，気を付ける。
・子どもたちの名前は，早く覚え，積極的に話しかけるようにすると良い。名前を早く覚えると同時に性格や学習の理解度までも把握することが出来た。
・子どもの間で流行しているものを知っておくと会話が増える。
・他の学年の子どもたちとも仲良くする。多くの子どもたちの成長を見ることが出来たり，教師としての話し方や話の内容について学ぶことが出来る。
・学校や学級にはルールがあるので，これぐらいいいだろうと思って勝手にルールを無視した行動はとらない。
・朝早めに教室へ行って子どもの様子を見たり，休み時間に積極的に遊ぶ。
・教育実習生も子どもから見れば一人の教師として見られる。教師としての自覚を忘れない。
・常に児童の目線に立って物事を考えると色々なことがスムーズにいく。
・挨拶や態度をしっかりするだけでなくいつも笑顔でいること。子どもたちも笑顔でいると近づ

きやすい。
・個人差などをよく理解する。様々な例があるが，勉強面や体力面はもちろん，食べ物のアレルギーや人間関係の得意，不得意なども気を付けるべき。

〈授業関係について〉
・板書の字や書き順などは事前に練習したほうが良い。
・声の小さい人は。呼吸を深くして声を出すと大きな声が出るようになるので練習すると良い。
・指導案や板書計画は，実習中ほとんど毎日書くことになるので今から数をこなす事が必要。
・子どもたちに考えさせる授業，わかりやすい発問，全員が理解できる授業が出来るよう精一杯教材研究をする。
・授業参観中は，積極的にメモをとり教師の技を盗む。
・授業実践中は，授業の主体が誰にあるのかしっかり意識しながら取り組む。
・教具は，工夫すればするほど児童が興味を持ってくれるので時間をかけてより良い物を作ること。
・授業中，集中していない子や理解に苦しんでいる子をよく見てサポートする。
・全教科を教えるつもりでいること。たくさんの教科を教えればそれだけ力になる。
・授業での言葉遣いに気を付けること，ふとした時にいつもの言葉遣いが出てしまう。
・授業の準備は前もってしておくこと，事前訪問で授業研究の単元がわかった場合は，指導案を作っておく。
・先生方の授業を見る機会には，どういった所に注目してみるか決め，的を絞って見ると勉強になる。また，それぞれの先生方によって考え方や教え方は様々なので，一人ひとりの先生方の独自の色を感じながら見ると良いと思う。私自身も先生方の授業を見る中で，自分ならどういう色を出すことが出来るかを考えることが出来た。

〈実習に対する姿勢について〉
・３週間は，意外と長いので，体調管理に気を付ける。
・最後にお世話になった先生方に感謝の気持ちを決して忘れない。
・頑張れば頑張っただけ良い授業が出来る。頑張ること！
・人生の中で本当に良い経験の一つになる。頑張ること！
・教育実習期間，自分が納得行くまで苦しむ，悩む。必ず何か財産になるものが見つかる。
・大変なことや，つらいこともあるが，子どもたちが可愛いから頑張れる。

まとめと今後の課題

教育実習の目的は，大学での講義やゼミ等１年間半にわたって学んだ教育に関する理論及び模擬授業を通して培った授業力を，小学校という実際の教育現場で実際に実践してみて，実証的に学習することである。それによって，実習生個々の教師としての教職意識や実践力の状況や課題を自ら認識し，それらを形成する教育に関する理論や技術をさらに深めるきっかけになることを期待するものである。そのために，学生は自己評価を通して絶えず教師としての適性に関する自己理解を深めたり，自分が研究課題として設定した教育実習の目的が

達せられているか否かを評価しながら，教師に向けた資質向上に努めることになる。この意味で，自己評価は教育実習には必要不可欠である。さらに，この自己評価が，将来教職を目ざす学生を，教師力・人間力向上へのさらなる学習の継続を志向する意志の形成・質的変容へと向かわせることになるのである。また，大学で指導している教師側の評価にも役立て，学生への指導内容・指導方法の改善につなげていくことが重要である。そして，大学の「理論的」な学びと現場の「実践的・体験的」な学びとを，「目ざす教師像」を基に，学生一人ひとりが繋げていくことができるサポート体制を整えていくことが必要であると考える。

3か年の学生による自己評価とアンケートで明らかになった課題と，実習校から送られてくる実習評価票の総合所見，教育実習日誌に記述されている指導教諭からの指導内容，実習校からの要望で指摘されている問題点等を改善するために，教職に関する教科や実技教科，模擬授業関連教科を含むカリキュラム改善などの多くの課題を継続して検討していかなければならないと考えている。

教育実習を終えての感想欄に記述されていた「必ず小学校の先生になって子どもたちの可能性を広げられる教師になりたい」に代表されるよう多くの学生が，教師への道を改めて認識したようである。我々指導教官においても学生の夢を実現すべき新しい時代に対応した指導法を探りながら即戦力となる学生を養成していく。

また，3か年実施してきた調査に関しても，実習に参加した全学生の回答を得られるように工夫して，今後も継続して行っていく予定である。

引用・参考文献

○柴田俊和・古川雅里子（2009）「教育実習における学生の学びと自己評価の現状及び課題」びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要　第6号
○東京学芸大学教育実践研究支援センター教育実習指導部門（2007）教育実習の手引き
○東京学芸大学（2007）「附属小学校・中学校・高等学校用教育実習日誌」
○桝川　知（2013）「教育実習を通した学習継続意志の形成　―実習課題と自己評価に着目して―」名古屋女子大学　紀要59
○三島知剛・安立大輔・森敏昭（2010）「教育実習生の実習前後における学習の継続意志の変容」学習開発学研究